

## 普及活動検討会実施報告書

登米農業改良普及センター

実施月日：令和4年8月31日

実施場所：登米合同庁舎 203会議室

### 1 検討内容

No	検討項目
1	令和4年度普及指導計画について
2	プロ課題：加工用ばれいしょ栽培技術の向上について
3	プロ課題：農地整備を契機とした地域営農体制の構築について

### 2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	1	マスコミ	1
農業関係団体	1	民間企業	1

### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
令和4年度普及指導計画について	4.0	<ul style="list-style-type: none"><li>ニーズに沿った計画策定であり、目標設定も適切である。実績の振り返りや課題の抽出も実施されている。</li><li>地域の優良事例を見直してロールモデルとし、地域に波及させるような計画を策定すると、具体的で評価もしやすくなる。</li><li>現状分析がやや弱く、特に力を入れて改良しなければならない点が見えにくい。</li><li>関係機関と連携した支援の継続、持続可能な農業生産に向けた支援を期待する。</li><li>気象変動に強い魅力ある地域農業、収益性のある特産物の産地確立を期待する。</li><li>土地利用型作物に対する活動は良いが、飼料作物に関する活動も計画してはどうか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>今後も関係機関と連携し、ニーズに沿った普及計画の策定や効果的な活動、活動結果の検証に努めたい。</li><li>今後の普及計画策定において、管内優良事例をロールモデルとして地域に波及させることについて検討したい。</li><li>メリハリのある現状分析や改良方向の整理となるよう、調査や記載方法等の改善に努めたい。</li><li>今後も関係機関との連携に努め、引き続き持続的な農業の推進を支援していきたい。</li><li>気象変動に強く、収益性のある品目の導入や作付ほ場の排水対策等を検討していきたい。</li><li>持続的な農業推進の観点からも飼料作物は重要性を増してきており、今後の活動を検討したい。</li></ul>

<p>プロジェクト課題 加工用ばれいしょ栽培技術の向上について</p>	<p>3. 6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・損益分岐点売上高の観点から目標を具体的に設定し、達成状況や課題の確認を行うと良い。</li> <li>・大雨の影響で目標収量を達成できなかったが、組合員の生産意欲に配慮した継続的支援を期待する。</li> <li>・異常気象に対応できる栽培技術や排水対策を期待する。また、異常気象後における作業効率の低下や被害状況に関する調査データも重要である。</li> <li>・大手メーカーと上手に付き合いながら、利益確保する体制を構築し、産地が確立することを期待する。</li> <li>・加工用ばれいしょでの利益確保は難しい。農協での選別出荷施設導入などにより、より高価格で取引される市場出荷にも取り組んではどうか。</li> <li>・計画日数を超過しており、計画日数の検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田転作による生産であること、買上単価がほぼ固定であることから収量を目標としたが、損益分岐点売上高についても検討していきたい。</li> <li>・生産者個々の栽培技術向上により、今回の大雨被害が無ければ、これまで以上の収量が見込めたことは調査結果から示している。更なる技術向上と次年作に向けた生産意欲の維持に努めたい。</li> <li>・異常気象を軽減できる栽培技術や排水対策について検討したい。被災後の調査は、調査項目毎の有用性や波及性を検討して実施していきたい。</li> <li>・大手メーカーの買上単価は生食用（青果）に劣るが、安定した顧客である。利益確保できる生産体制を構築することで産地形成していきたい。</li> <li>・生食用（青果）での販売は単価的にも魅力的だが、出荷調製施設や保管施設など課題も多い。今後、関係機関と連携して検討していきたい。</li> <li>・次年度計画の策定時に精査したい。</li> </ul>
<p>プロジェクト課題 農地整備を契機とした地域営農体制の構築について</p>	<p>3. 9</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地整備事業実施地区における担い手の法人化やスマート農業の実践など、モデル集落の確立に対する支援に期待したい。</li> <li>・法人が設立したことで、担い手の調整や地域の将来ビジョンなどに対する意識改革が進むことが期待される。</li> <li>・地域での話し合いは、総論賛成・各論反対となりやすいので、本音の意見が言いやすい場面設定をするなど、丁寧な支援をお願いしたい。</li> <li>・県内の集落営農の法人化事例には、良い事例・もめた事例が多くあるはず。法人の視察も含めて、先行事例を勉強し、理想と現実の折衷案をいかに提案するかが大切。</li> <li>・計画日数を超過しており、計画日数の検討が必要。</li> <li>・大雨による農地の冠水被害が多くなっており、危険分散のためにばれいしょ以外の高収益作物も検討するのは良いこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象地区における地域営農体制確立に向けた課題解決の過程や手法など、他地区でも参考とできるような支援を実施したい。</li> <li>・地域の中での役割の整理など、法人設立後も課題は多いので、今後も継続して支援していきたい。</li> <li>・農地整備事業ということで個人の意見を言いにくい傾向があるため、関係機関と連携して、早い段階で本音の意見を言えるような場面を作っていきたい。</li> <li>・県内の法人化事例を情報収集し、関係機関と連携しながら、当該地域の状況に合う事例の紹介や視察研修等を実施していきたい。</li> <li>・次年度計画の策定時に精査したい。</li> <li>・これまでのところ、課題対象農家はばれいしょに手応えを感じているが、ほ場のローテーションや栽培品目による危険分散もあるので、他品目の導入についても提案していきたい。</li> </ul>

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高収益作物の生産拡大には、地域全体の排水が課題となっている。市、県、国の共通認識で排水改良する必要がある、まずは、現状を知るものから声を上げなければならない。</li> <li>・米や野菜の生産における肥料高騰対策として緑肥の検討はどうか。</li> <li>・多くの農業経営者は、資材高騰による経営費の負担や後継者に関する不安を誰にも相談できない状況にある。具体的な改善目標の策定支援など、普及センターと連携して農業経営者の不安を軽減したい。</li> <li>・個別巡回指導は生産者にとって良い取組だが、自らベテラン農家に指導を受ける生産者もあり、市事業の活用者が少ない。事業活用に向けて協力願いたい。</li> <li>・農地整備の際は、荒廃農地の問題や広域的な排水対策についてももしっかり話し合っ欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田で露地園芸を推進する上で、ほ場の排水対策が最重要課題であることから、課題解決に向けて関係機関・団体等と情報共有しながら取り組んでいきたい。</li> <li>・緑肥の活用について、肥料高騰対策としての効果と併せて、栽培適応性についても検討していきたい。</li> <li>・近年、農業経営者の不安材料は多くなる一方であり、具体的な改善目標の策定支援がより重要になってきていると感じます。関係する専門家の方々や関係機関と連携した支援をしていきたい。</li> <li>・市のマイスター事業は後継者育成に有効な事業の一つだが、関係機関の連携も事業運営には必要と理解しており、継続的に協力していきたい。</li> <li>・近年は、農地整備地区以外の周辺地域も地域営農構想策定の一環で話し合われているようです。</li> </ul>
------------	---	---

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する